
2009年度中間決算説明会



2009年11月27日

株式会社 千葉銀行

目次

はじめに	2
------	---

■ 1. 業績の概要

業績概要①	4
業績概要②	5
資金利益①	6
資金利益②	7
資金利益③	8
役務取引等利益	9
有価証券関係損益	10
経費	11
信用コスト①	12
信用コスト②	13
資本政策	14
2010年3月期 業績予想	15

■ 2. 中期経営計画「1st1st」の進捗

中期経営計画の骨子	17
金融仲介機能の強化と質の高い金融サービスの提供	
法人Ⅰ	18
法人Ⅱ	19
個人Ⅰ	20
個人Ⅱ	21
円滑な資金供給	22
経営資源の効果的配分	23
強靱な経営態勢の構築Ⅰ	24
強靱な経営態勢の構築Ⅱ	25
人材育成の強化	26
今後のCSR活動について	27

■ 資料編

はじめに

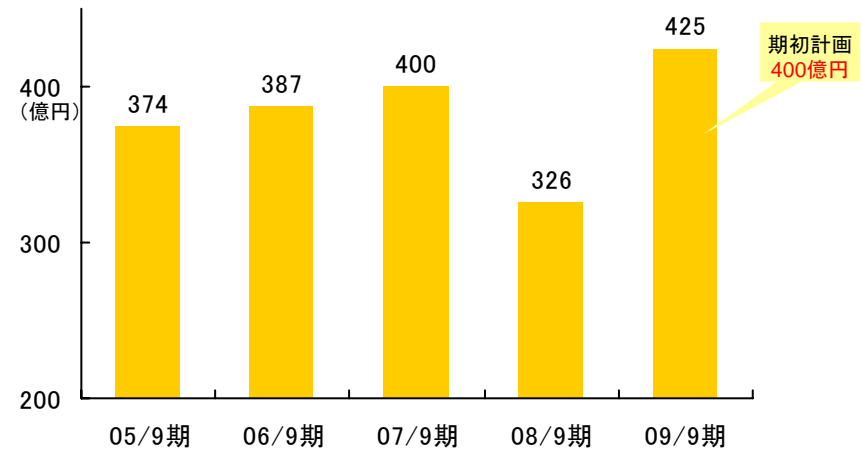
■ 2009年9月期は本業の収益を示す実質業務純益が、債券関係損益の改善を主因として前年同期比99億円、30.4%増加の425億円となり、期初計画を上回るとともに、過去最高を更新しました。

■ また、単体中間純利益についても、実質信用コストが想定以下の水準にとどまったことなどを反映し、前年同期比90億円、122.8%増加の163億円となり、期初計画を上回りました。

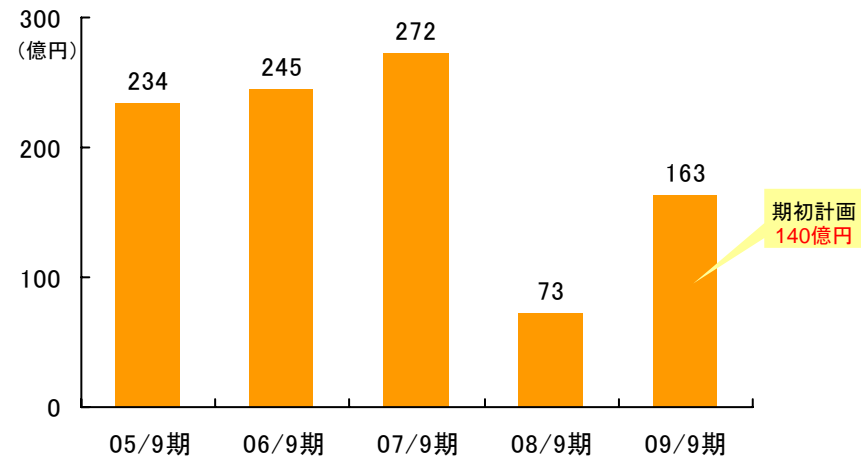
■ 本日は中間決算の概要などについて説明した後、本年4月よりスタートした中期経営計画「1st1st (ダブルファースト)」に基づく当行の経営戦略について説明いたします。

実質業務純益(単体)

※実質業務純益=業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額



中間純利益(単体)





■ 1. 業績の概要

■ 2. 中期経営計画 「1st1st」の進捗

■ 資料編

業績概要①

■ 預貸業務は堅調に収益を計上し、役務取引等利益は回復

<億円>	08/9期	09/9期	増減額
業務粗利益 ①	730	823	92
資金利益	734	728	△ 6
役務取引等利益	90	67	△ 22
特定取引利益	16	16	△ 0
その他業務利益	△ 111	10	121
うち 債券関係損益 ②	△ 128	△ 5	123
経費 ③	404	397	△ 6
うち 人件費	198	199	0
うち 物件費	183	178	△ 5
実質業務純益 ①-③	326	425	99
コア業務純益 ①-②-③	454	430	△ 24

<億円>	09/9期	増減
資金利益	728	△ 6
国内業務部門	708	0
うち 預貸金	632	9
貸出金利息	697	△ 31
預金利息	65	△ 41
うち有証利息配当金	84	△ 8
国際業務部門	19	△ 7

✓ オルタナティブ投資の解約損11億円が資金利益より控除されている

<億円>	09/9期	増減
役務取引等利益	67	△ 22
役務取引等収益	153	△ 19
うち 投信・年金保険等	35	△ 15
投資信託	18	△ 7
年金保険等	17	△ 8
役務取引等費用	85	3

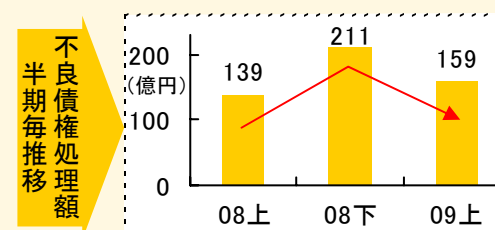
半期毎推移

業績概要②

■ 有価証券関係損益は大幅に改善し、実質信用コストは減少。収益は期初計画を上回る

＜億円＞	08/9期	09/9期	
			増減額
実質業務純益	326	425	99
一般貸倒引当金純繰入額 ④	75	52	△ 23
業務純益	250	373	122
臨時損益	△ 139	△ 152	△ 13
うち 不良債権処理額 ⑤	139	159	20
うち 株式等関係損益 ⑥	△ 12	6	18
経常利益	111	220	109
特別損益	19	43	23
うち 償却債権取立益 ⑦	21	43	22
中間純利益	73	163	90
有価証券関係損益 ②+⑥	△ 141	0	142
実質信用コスト ④+⑤-⑦	193	168	△ 25
連結中間純利益	76	166	89
連単差	2	2	△ 0

＜億円＞	09/9期	
		増減
一般貸倒引当金純繰入額	52	△ 23
不良債権処理額	159	20
新規発生 (債務者区分悪化)	154	4
担保	18	△ 0
回収等(含引当率低下)	△ 13	16
信用コスト	211	△ 3
償却債権取立益	43	22
実質信用コスト	168	△ 25



＜億円＞	期初計画	実績	
			計画比
実質業務純益(単体)	400	425	25
経常利益(単体)	200	220	20
中間純利益(単体)	140	163	23
中間純利益(連結)	145	166	21

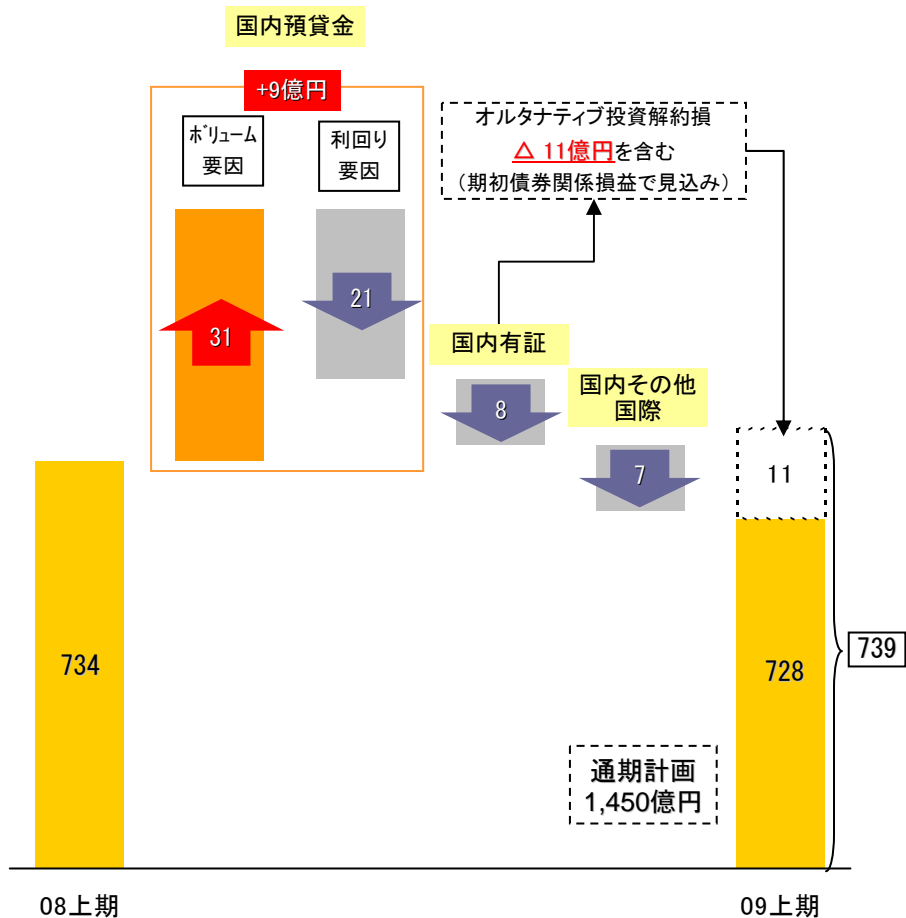
実質信用コスト

期初計画との比較

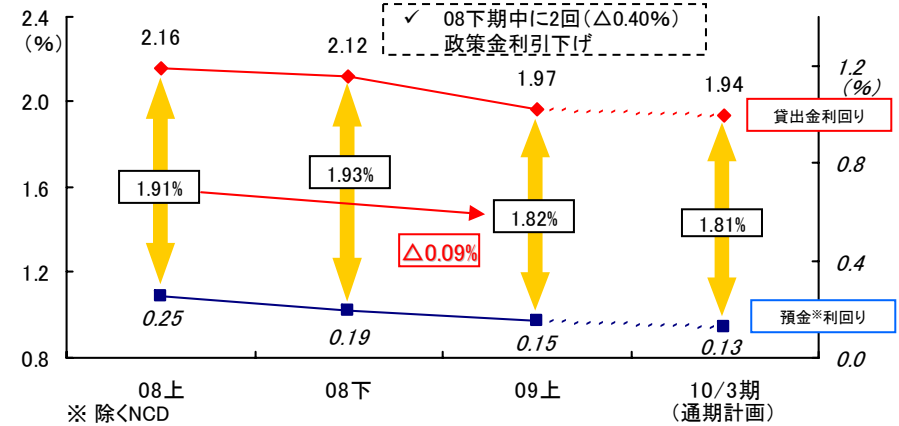
資金利益①

■ 預貸金ボリュームは堅調に増加するも、利下げの影響により預貸金利差は縮小

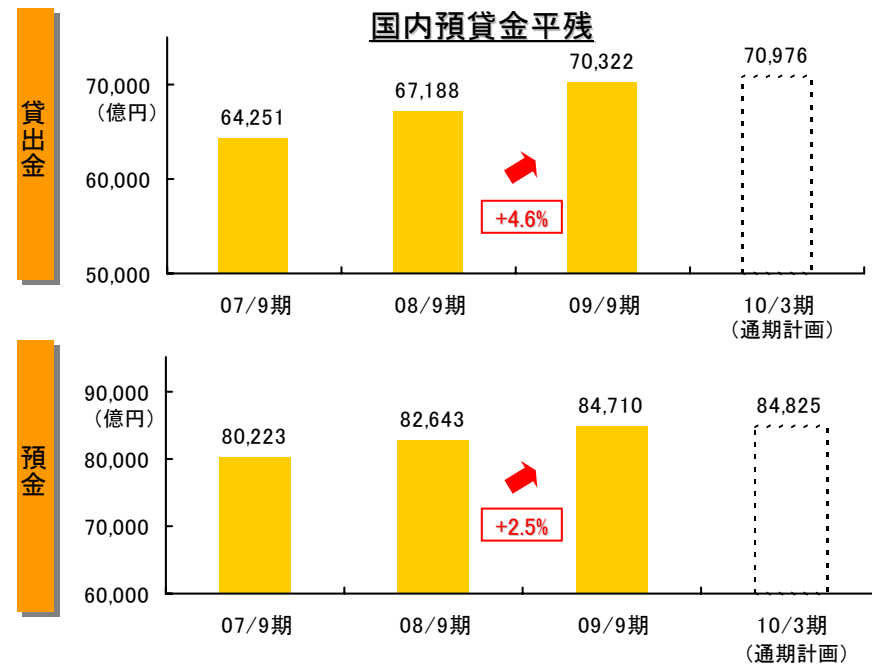
資金利益増減要因



国内預貸金利回り



国内預貸金平残



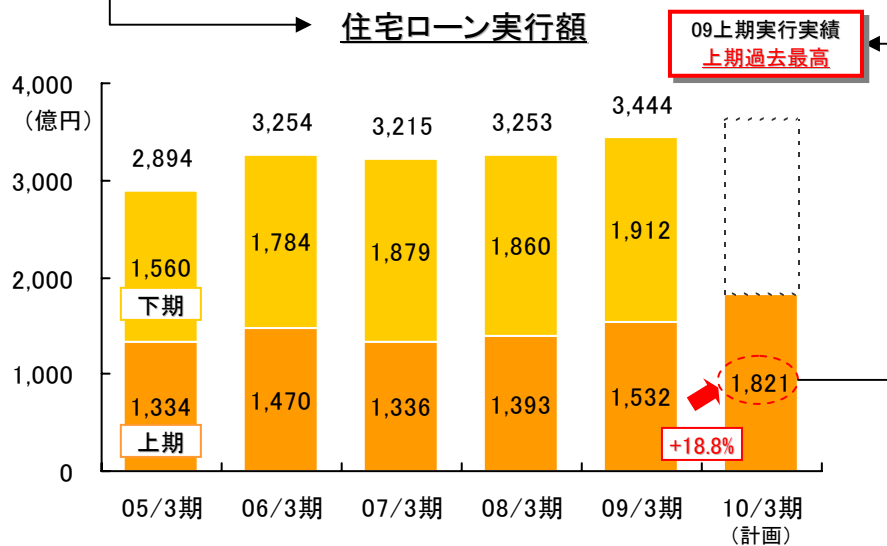
資金利益②

■ 住宅ローン実行は引き続き好調、県内外で貸出金増加

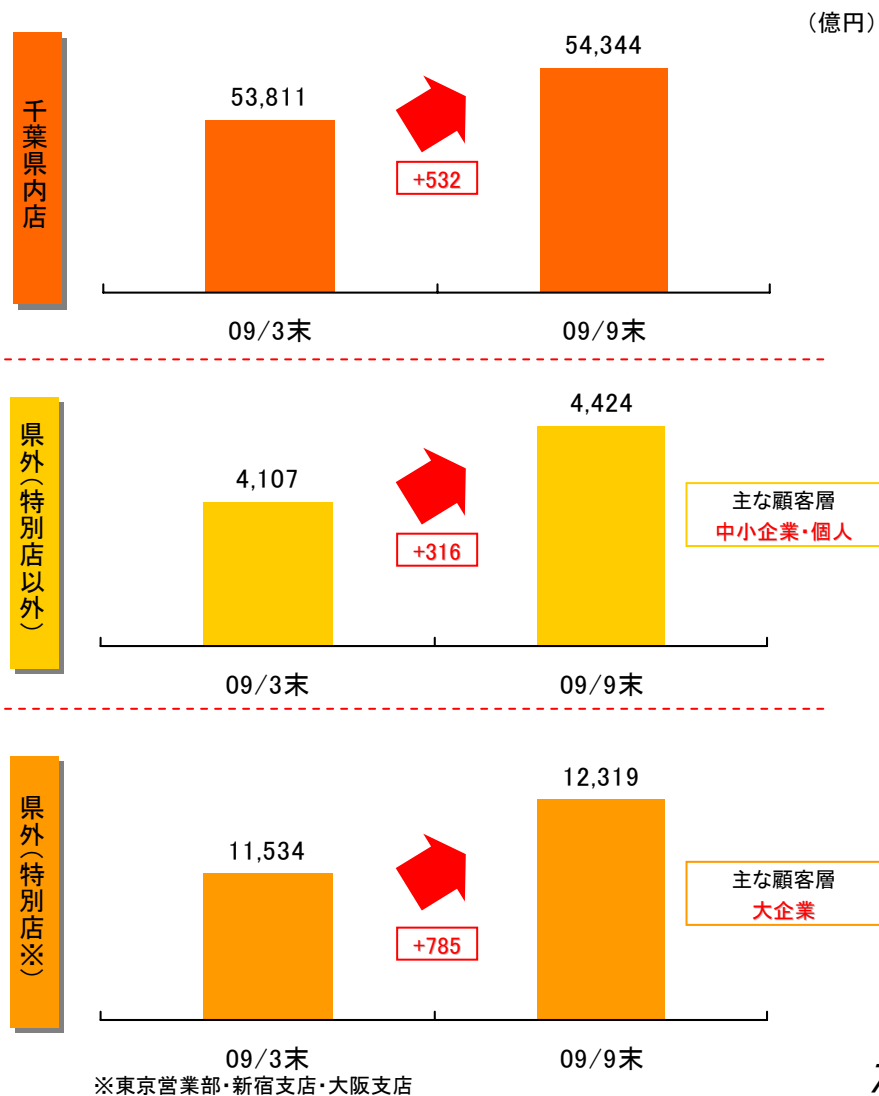
国内貸出金増減内訳

	09/3末	09/9末	09/3末比
国内貸出金	69,453	71,087	1,634
除く公共	66,906	67,993	1,086
事業者向け	43,136	43,440	304
消費者ローン	23,770	24,552	781
うち住宅ローン	22,675	23,477	801
公共	2,546	3,094	547

住宅ローン実行額



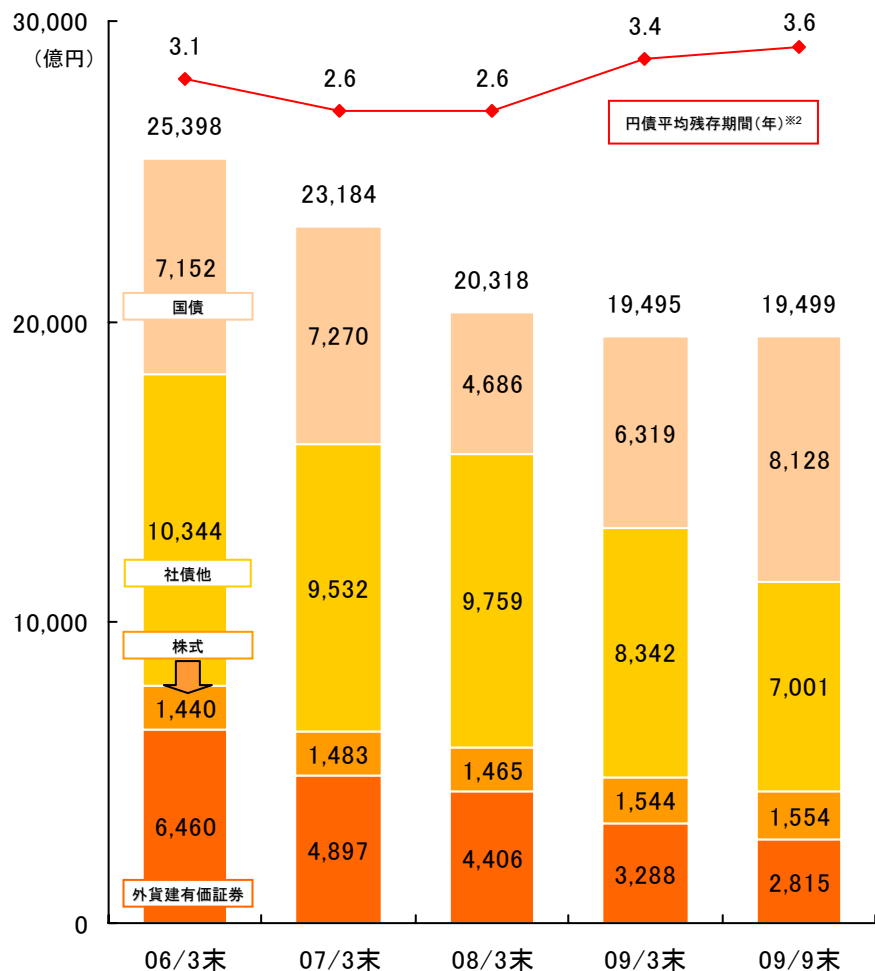
国内貸出金地域別増減内訳



資金利益③

■ 外国債券を中心に残高を圧縮する一方、国債を増加させ、収益性を維持

有価証券末残※1推移



※1. 評価損益を除くベース
 ※2. 固定利付債のみで算出

国内有価証券(平残・利回り・収益)

(平残・収益: 億円、利回り: %)

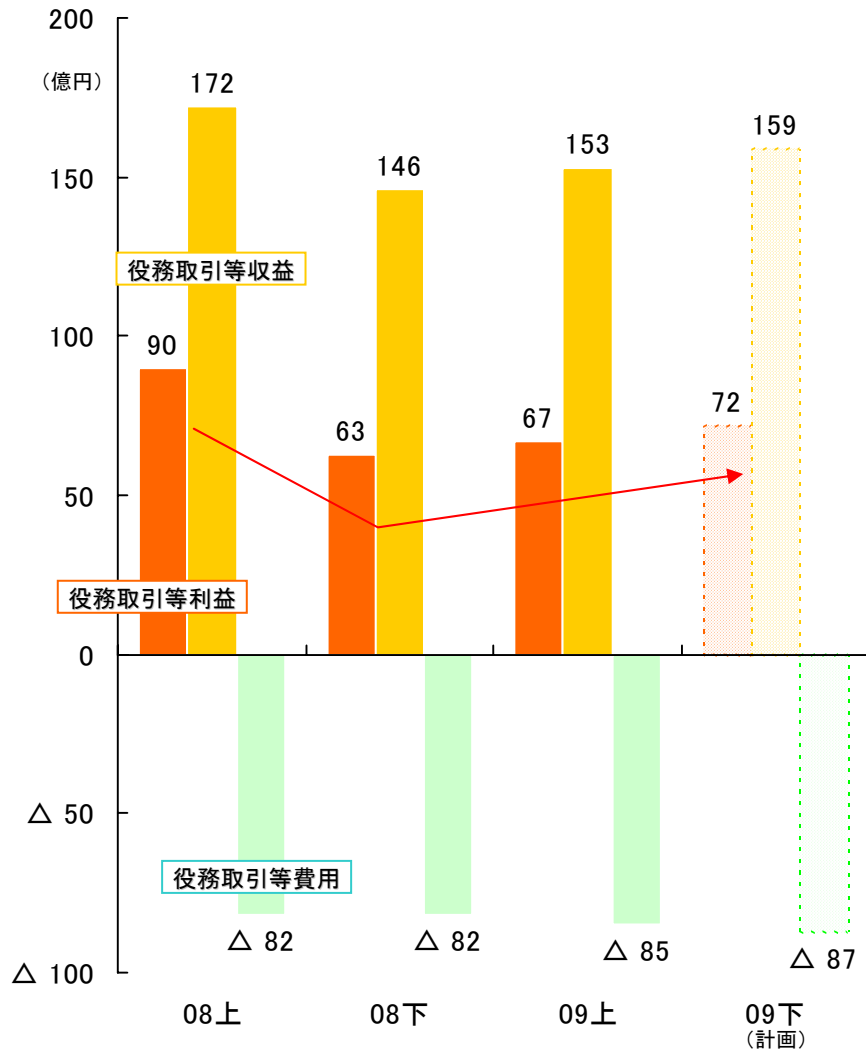
		08/9期	09/9期	
		実績	実績	増減
国内有価証券	平残	15,971	16,087	116
	利回り	1.16	1.05	△ 0.11
	収益	93	84	△ 8
債券 (国債・地方債・社債)	平残	13,546	13,763	216
	利回り	0.86	0.89	0.02
	収益	58	61	2
株式・その他証券	平残	2,424	2,324	△ 99
	利回り	2.84	2.01	△ 0.83
	収益	34	23	△ 11

オルタナティブ投資解約損
 △11億円を含む
 (期初債券関係損益で見込み)

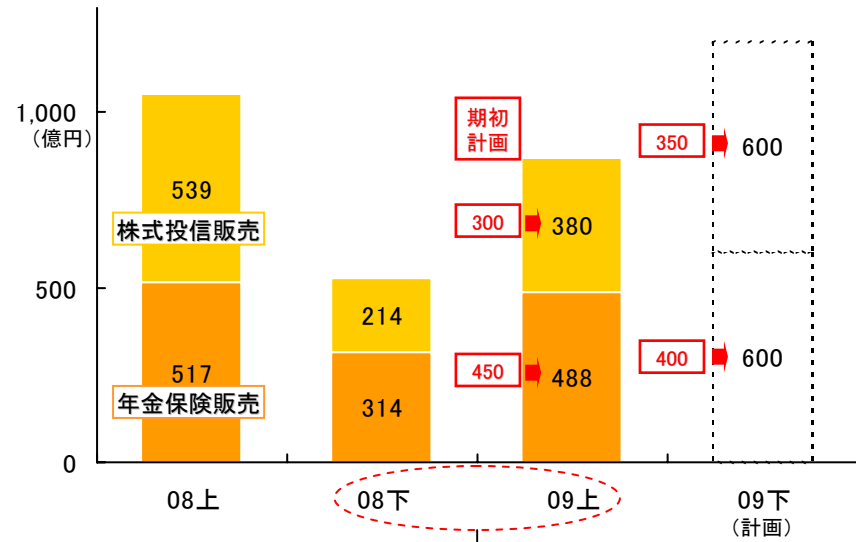
役務取引等利益

■ 投資型金融商品販売は着実に回復、さらなる収益拡大をめざす

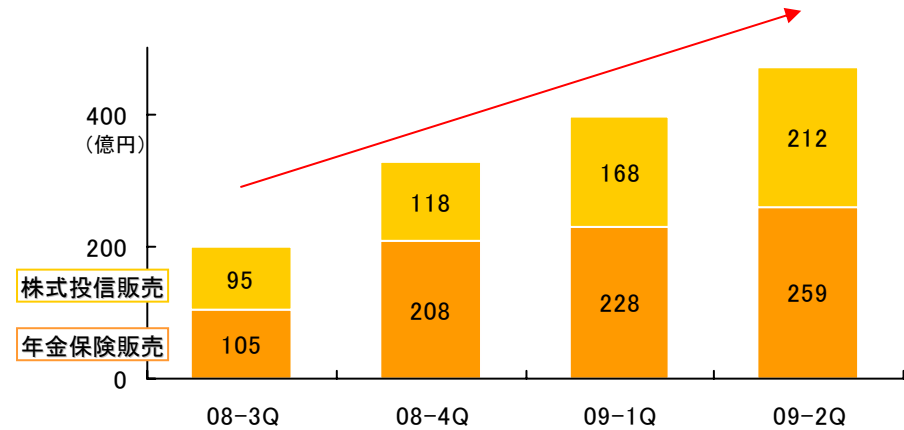
役務取引等利益(半期毎)



投資型金融商品販売推移(半期毎)



投資型金融商品販売推移(四半期毎)



有価証券関係損益

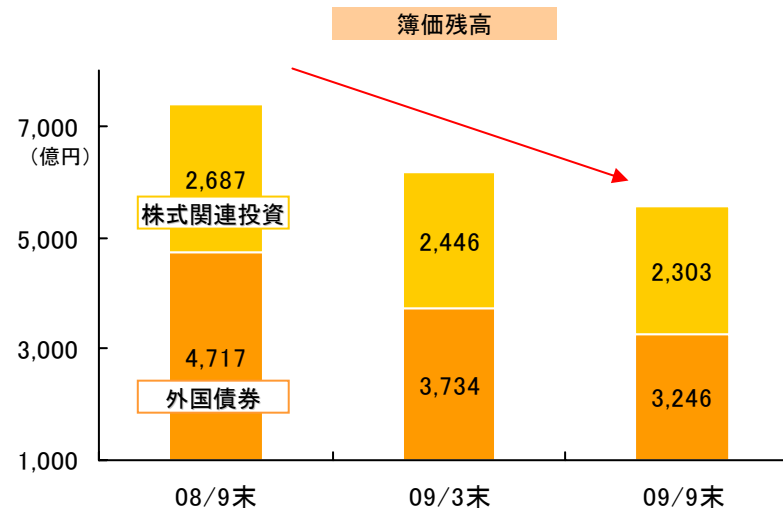
■ 外債・株式関連投資は残高圧縮、評価損益改善により、今後の損失発生が限定的に

有価証券関係損益

(億円)

	09/3期		10/3期		年初計画 △50
	上期	下期	上期	下期 (計画)	
有価証券関係損益	△ 141	△ 288	0	△ 10	年間 △20
債券関係損益	△ 128	△ 155	△ 5	△ 15	
株式等関係損益	△ 12	△ 133	6	4	

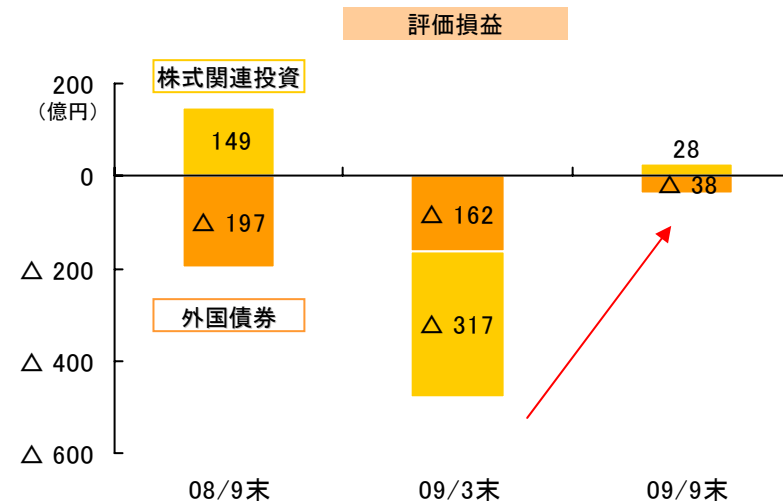
外国債券・株式関連投資(残高・評価損益)



外国債券・株式関連投資詳細(09/9末)

(億円)

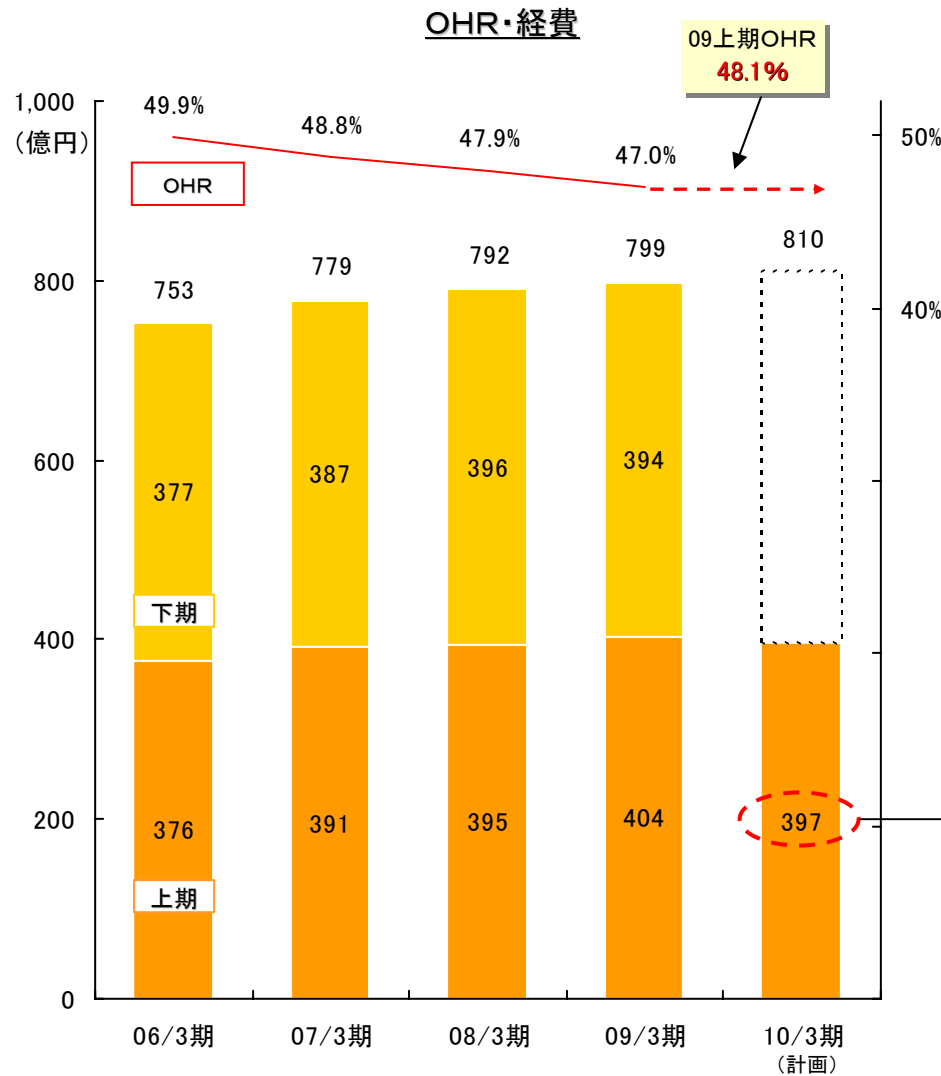
	簿価	時価	評価損益
有価証券合計	19,499	19,557	58
うち株式関連投資	2,303	2,332	28
株式	1,554	1,726	171
投資信託等	749	605	△ 143
うちオルタナ	78	70	△ 8
うち外国債券(含円貨建)	3,246	3,207	△ 38
うち金融機関	981	960	△ 20
うち証券化商品	140	134	△ 6
うちSIV・CDO	0	0	0
うち住宅ローン担保債券	676	663	△ 13



※株式および投資信託等

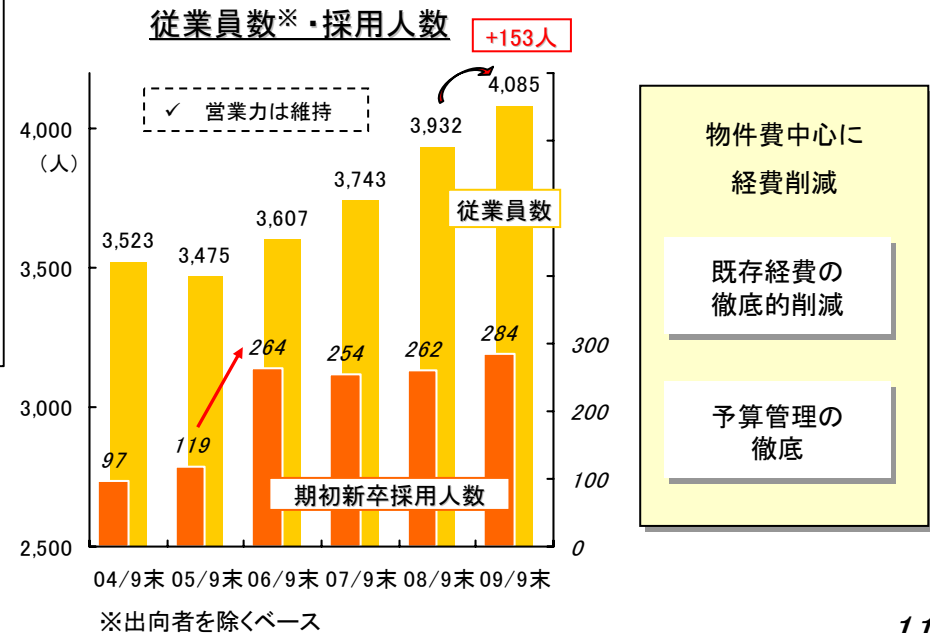
経費

■ 人員増加するも、物件費を中心とした見直しにより経費全体を抑制



経費増減内訳 (億円)

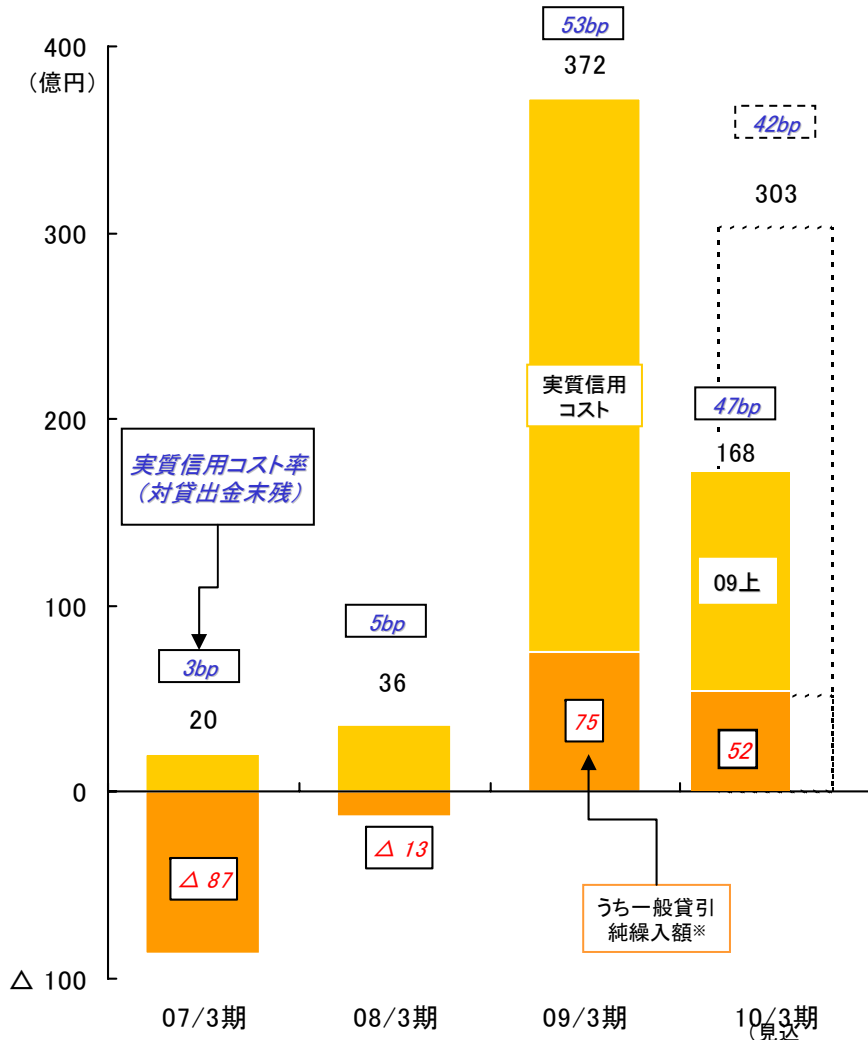
	08/9期	09/9期	08/9期比
経費	404	397	△ 6
人件費	198	199	0
物件費	183	178	△ 5
税金	21	20	△ 1



信用コスト①

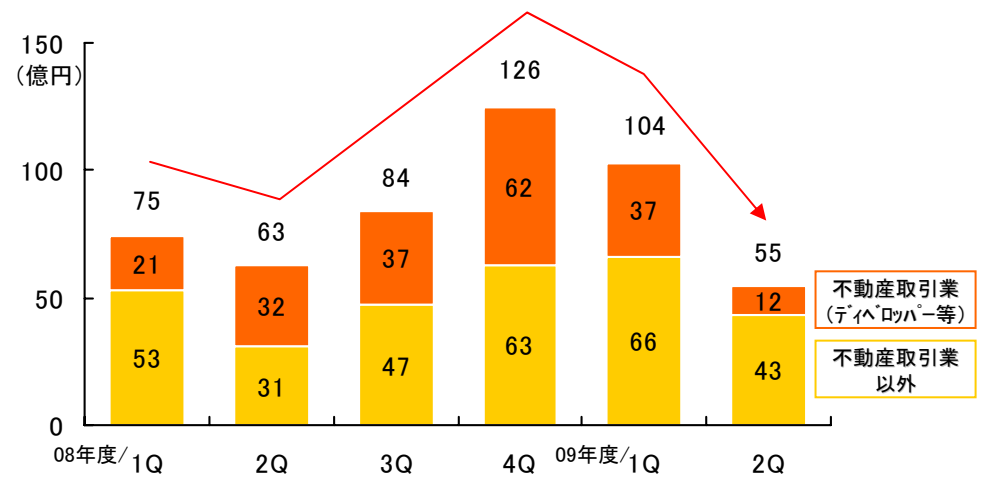
■ 不良債権処理は減少傾向。保守的に年度計画を見込む。

実質信用コスト



※07/3期、08/3期は特別利益の中の貸倒引当金戻入益に含めて計上

不良債権処理額推移(四半期毎)



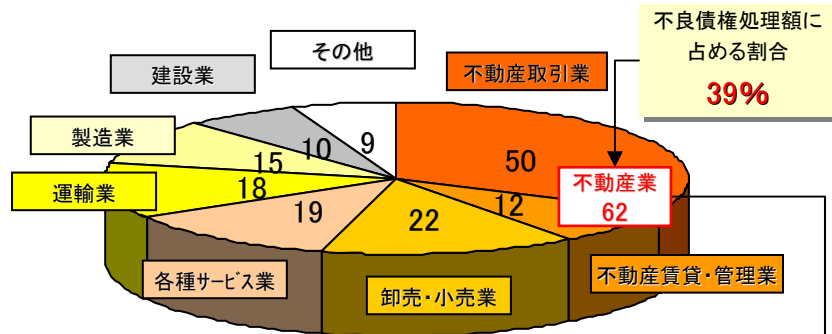
実質信用コスト内訳

		09/3期		10/3期	
		上期	下期	上期	下期 (見込み)
一般貸倒引当金純繰入額	①	75	0	52	0
不良債権処理額	②	139	211	159	150
うち新規発生		150	186	154	135
信用コスト	①+②	215	210	211	150
		425		361	
償却債権取立益	③	21	32	43	15
実質信用コスト	①+②-③	193	178	168	135
		372		303	

信用コスト②

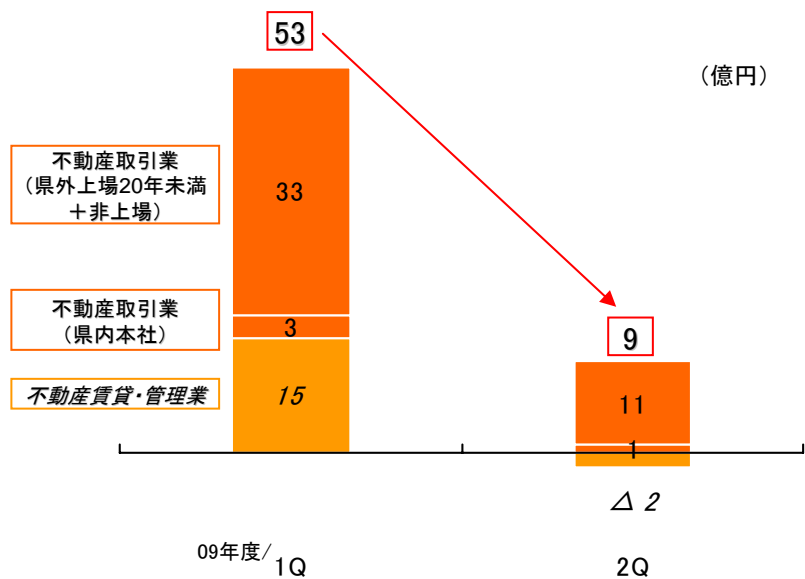
■ 不動産業からの損失は急速に縮小

業種別不良債権処理額(09上期)



不良債権処理額に占める割合
39%

09上期不動産業不良債権処理額内訳(四半期毎)



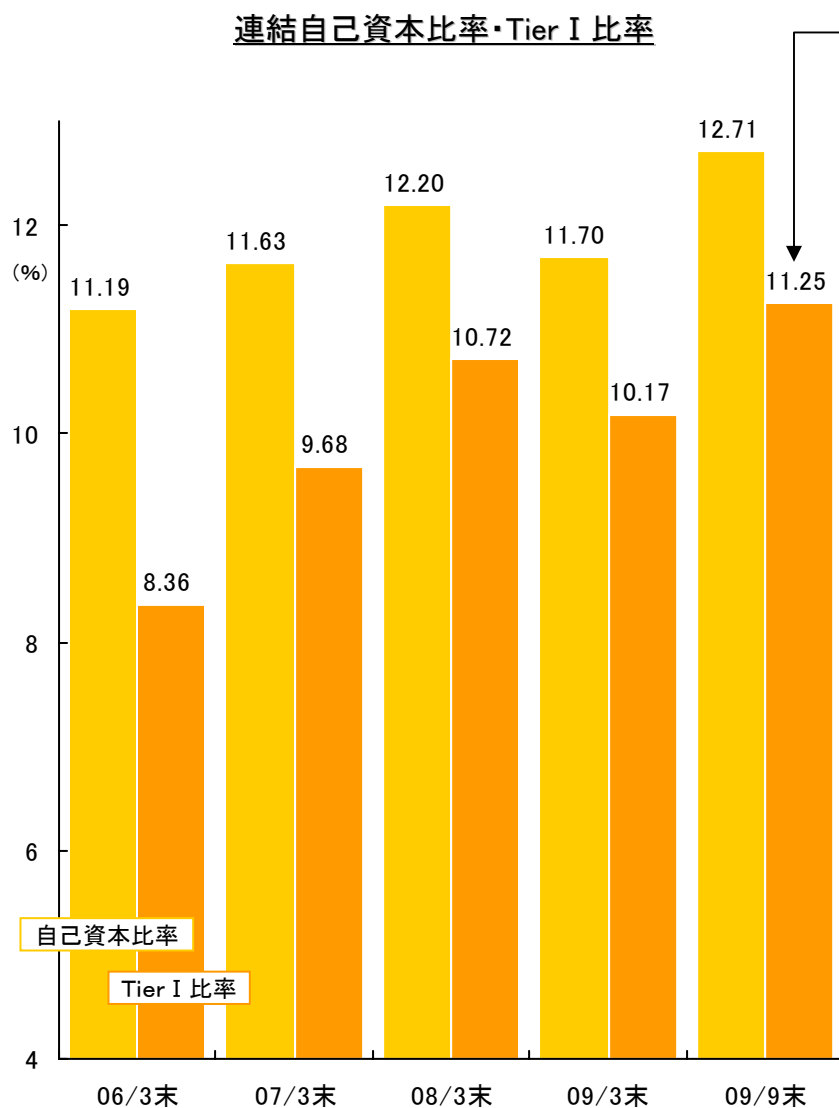
不動産業向け貸出内訳

	08/9末	09/3末	09/9末			09/9期 不良債権 処理額	
			08/9末比	09/3末比	構成比		
国内貸出金	68,321	69,453	71,087	2,766	1,634	100.00%	159
うち不動産業	14,632	14,426	14,412	△ 219	△ 14	20.27%	62
不動産賃貸・管理業	11,110	11,424	11,808	697	383	16.61%	12
不動産取引業等	3,521	3,001	2,604	△ 917	△ 397	3.66%	50
不動産取引業	2,697	2,149	1,844	△ 852	△ 304	2.60%	50
県内本社 (全て非上場)	873	805	726	△ 146	△ 78	1.02%	5
県外本社	1,823	1,343	1,117	△ 705	△ 225	1.57%	44
うち上場歴20年未満 + 非上場	935	602	461	△ 473	△ 140	0.65%	44
公社・公団	824	852	759	△ 65	△ 92	1.07%	0

✓ 1年間で50.5%減少

資本政策

■ 十分な自己資本で、地域へ円滑かつ安定的に資金を供給



Tier I 内訳(連結ベース:09/9末) (億円)

Tier I 合計	5,679
資本金(全て普通株式)・資本剰余金	2,684
利益剰余金	2,979
連結子法人等の少数株主持分に相当する額(優先出資証券無し)	126
その他	△ 110

(ご参考)

繰延税金資産(B/S計上額)	601
無形固定資産	87
リスクアセット	50,450

コアTier I 比率(連結ベース:09/9末)

自己資本比率	12.71%
Tier I 比率	11.25%
コアTier I 比率①	除く優先株・優先出資証券 11.25%
コアTier I 比率②	除く優先株・優先出資証券・繰延税金資産 10.06%
コアTier I 比率③	除く優先株・優先出資証券・繰延税金資産・無形固定資産 9.89%

2010年3月期 業績予想

■ 収益V字回復を目指す

〈億円〉	09/3期 (実績)	10/3期		上期 (実績)	下期 (計画)
		(計画)	09/3期比		
業務粗利益	1,421	1,640	219	823	817
うち 資金利益	1,466	1,450	△ 16	728	721
うち 役務取引等利益	153	140	△ 13	67	72
うち 債券関係損益	△ 284	△ 20	264	△ 5	△ 15
経費	799	810	11	397	412
実質業務純益	622	830	208	425	405
コア業務純益	907	850	△ 57	430	420
経常利益	65	480	415	220	260
当期純利益	113	320	207	163	157
実質信用コスト	372	303	△ 69	168	135
連結経常利益	93	510	417	230	280
連結当期純利益	123	330	207	166	164
一株あたり配当	11円	11円			
配当性向	79.3%	29.7%			

→ 上期比△7

✓ 預貸金利差縮小(△3bp)
[△13億円]

✓ 受取配当金減少
[△9億円]

→ 上期比+14

✓ 人件費+4億円
キャリアアシスタント(臨時従業員)
直雇用化[+3億円] 他

✓ 物件費+9億円
店舗関連(新設・移設等)
[+3億円]
投資にかかる償却負担増
[+2億円]
下期特有の要因(含各種引
当)[+4億円] 他

※連結経常利益、連結当期純利益、配当性向以外は単体ベース

■ 1. 業績の概要

▶ ■ 2. 中期経営計画 「1st1st」の進捗

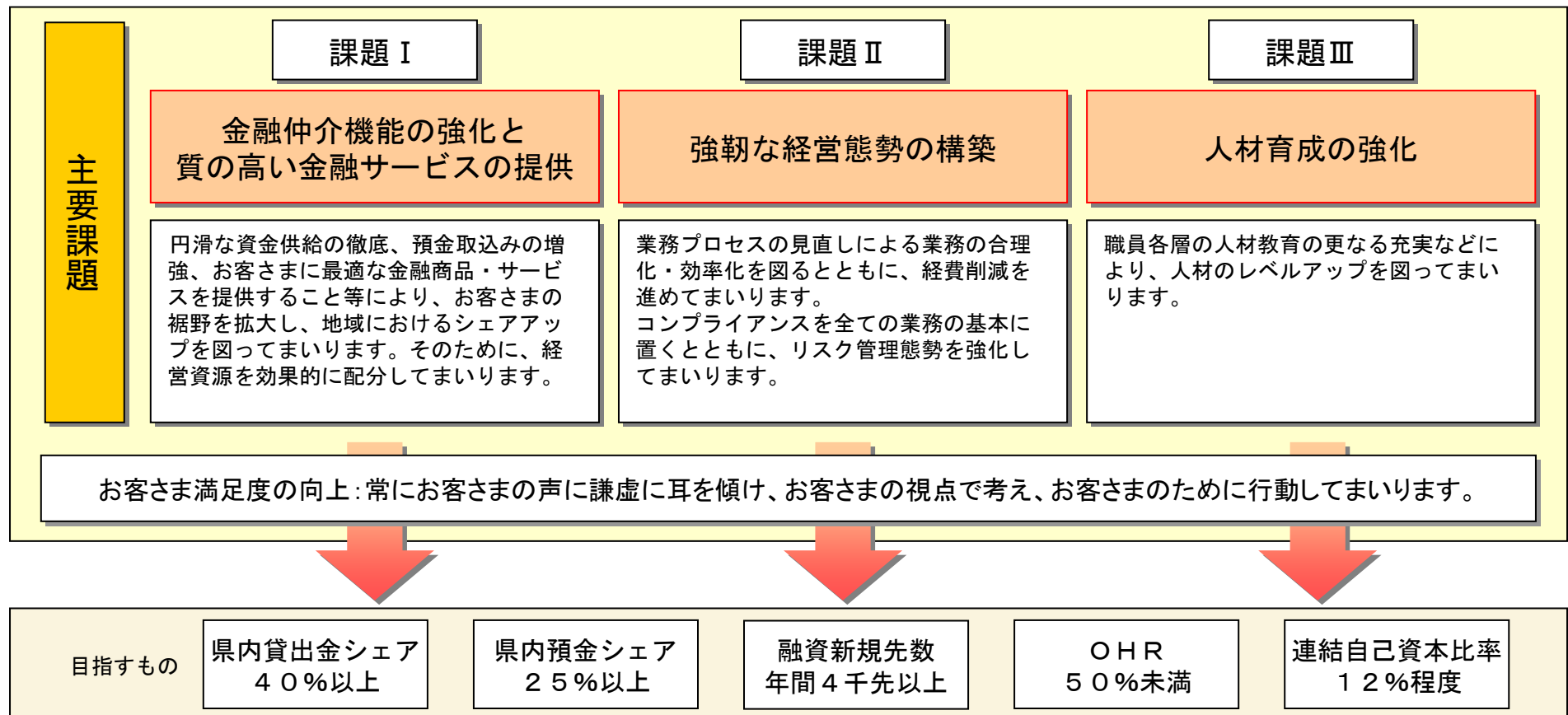
■ 資料編

中期経営計画の骨子

中期経営計画 「1st 1st (ダブルファースト)」

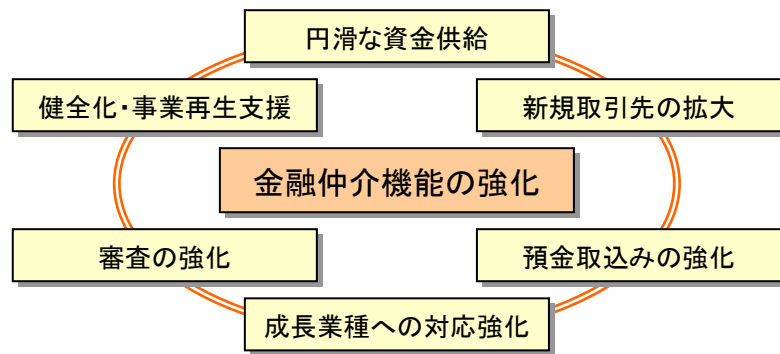
計画のゴールである2011年に向け、当行はお客さま第一主義を徹底し、地域のトップバンクの地位を確固たるものにしてまいります。

地域の総合金融サービスグループとして、着実に成長してまいります。

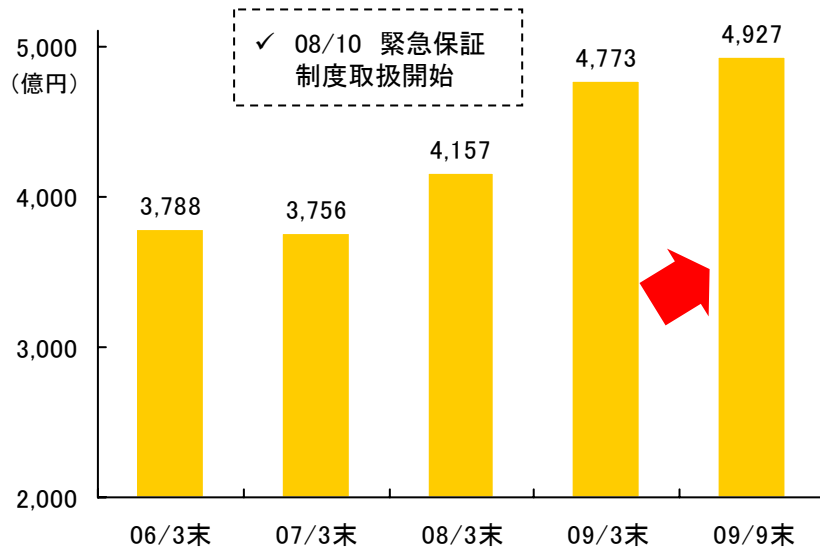


金融仲介機能の強化と質の高い金融サービスの提供: 法人 I

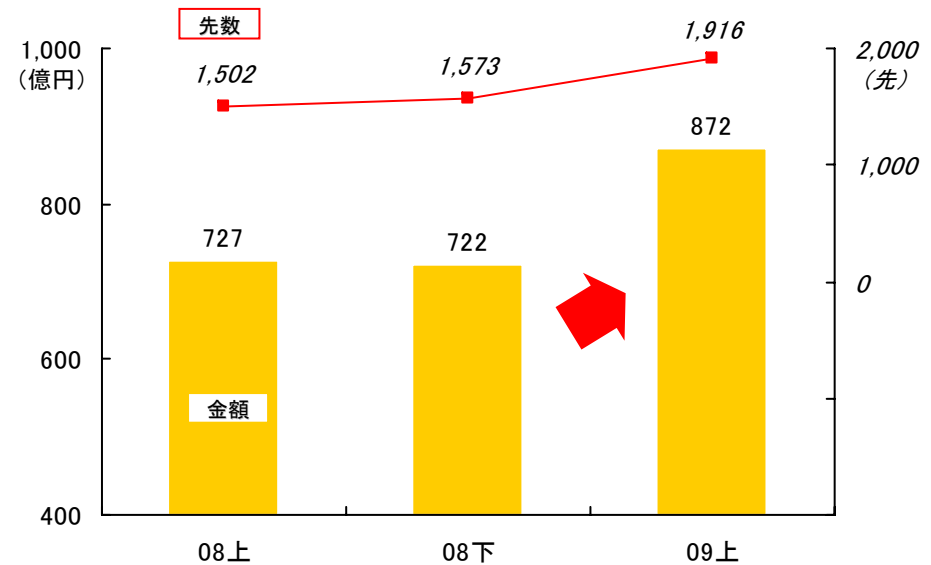
■ 保証協会付き融資の供給や新規取引の拡大により地域への金融仲介機能を強化



保証協会付き融資残高



融資新規(先数・実行額)※



※主として大企業との取引を行う県外特別店の実績を控除して記載

融資新規内訳

(先、億円)

	拠点数	先数 (先)	金額 (億円)
全店 (除く県外特別店)	※ 125	1,916	872
うち県外支店	12	253	300
うち06年度以降新設支店	6	174	219

※法人業務を実施する支店のみ記載

金融仲介機能の強化と質の高い金融サービスの提供：法人Ⅱ

■ 地域経済発展のため、農業をはじめとする成長業種への取り組みを強化

成長業種への取り組み

農業

都道府県別農業産出額

(億円)

都道府県名	農業産出額
1 北海道	9,809
2 千葉	4,119
3 茨城	4,082
4 鹿児島	4,053
5 愛知	3,154

出所：農業産出額[2007年]（農林水産省）

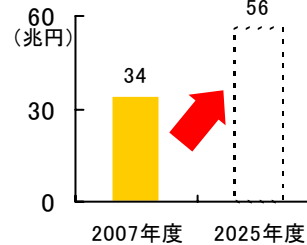
医療

千葉県の医療費：1.3兆円
医療施設従事者：21万人

国民医療費見込み

少子高齢化の
進展

医療・介護
ニーズの拡大



観光

観光立国・立県 への取り組み

2008年10月
観光庁設置

東京湾
アクアライン
通行料
引き下げ

豊富な観光資源

都道府県別宿泊者数

延べ宿泊者数 うち観光目的*

都道府県名	都道府県名
1 東京	1 北海道
2 北海道	2 千葉
3 千葉	3 沖縄

出所：宿泊旅行統計[09年4～6月]（観光庁）

※「観光目的が50%以上」の宿泊施設への
宿泊者数の順位

営業開発部内に専担者を配置し、取り組みを強化

農業ビジネスへの取り組み

当行農林業向け貸出金

(09/9末)

65億円

[国内貸出金の0.09%]

(参考)

農林水産業の千葉県内GDP
全体に占める割合：1.3%(06年
度)

各種セミナー・ビジネスマッチングの実施

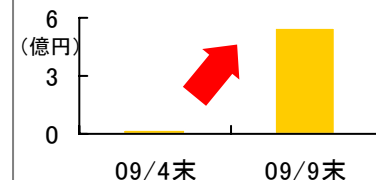


09/11
実施

「ちばぎんアグリビジネスセミナー」

制度融資の拡充

✓ 千葉県農業信用基金協会
信用補完制度取扱開始



09/4
取扱開始

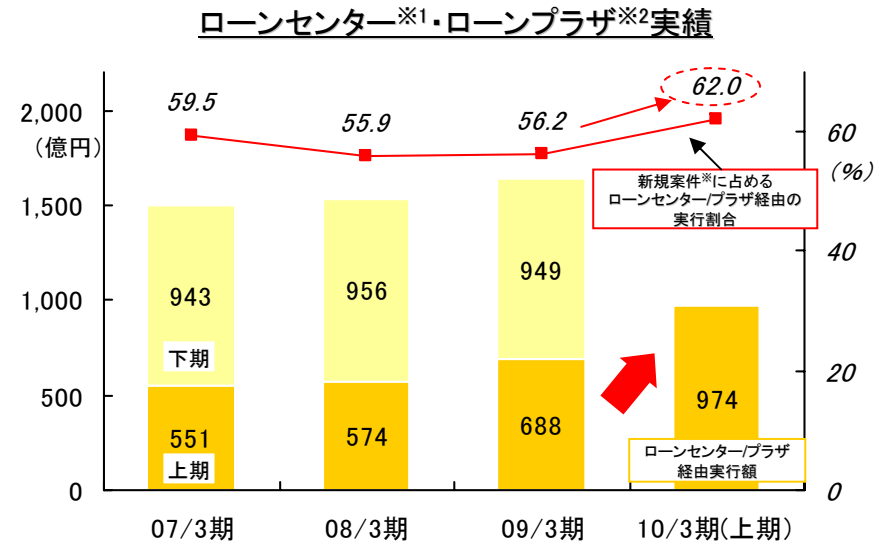
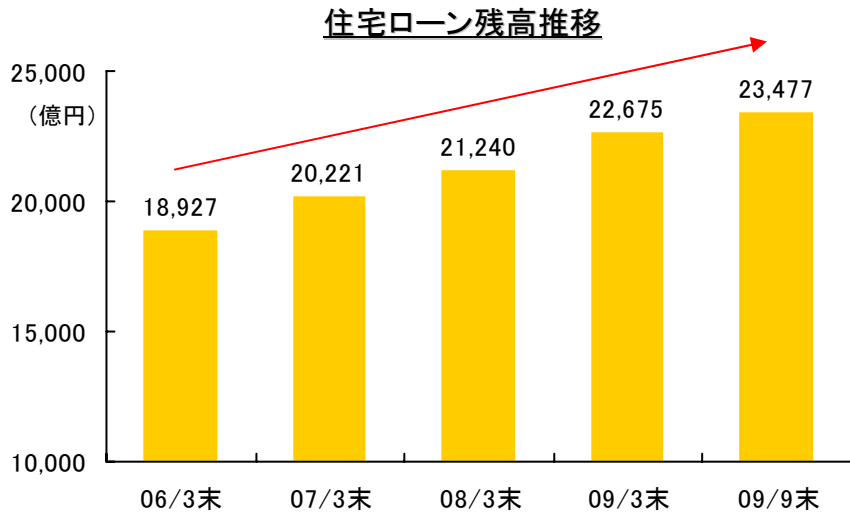
新たな資金調達手法の研究

SPCによる
設備資金調達

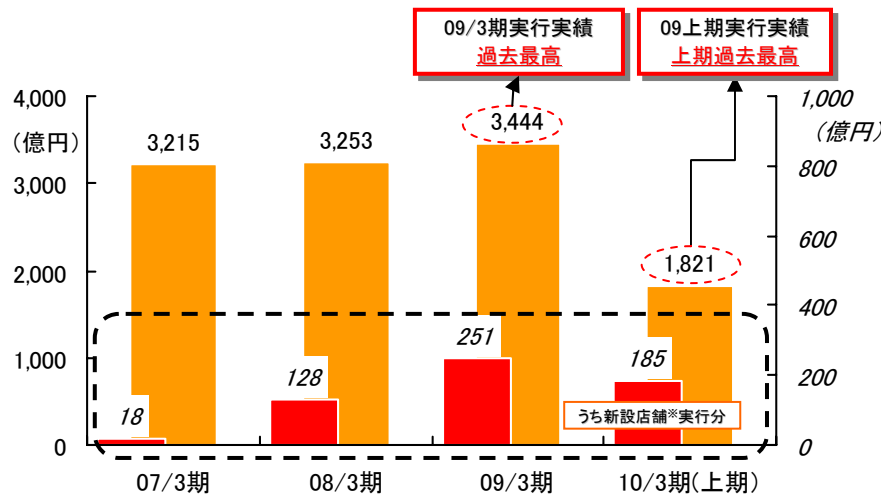
ABL方式を活用した
運転資金調達

金融仲介機能の強化と質の高い金融サービスの提供:個人 I

■ 成長地域への新規出店とローンセンター・ローンプラザの活動により、住宅ローン需要を獲得



住宅ローン実行額



※ 06/3末以降に開設した店舗

※1. 住宅業者への推進活動を行う拠点。千葉県内に7拠点設置
 ※2. 上記活動に加え、土日を含む顧客対応を行う拠点。千葉県内に4拠点設置

機能強化

人員の増強

期	人員数 (人)
09/4	45
09/10	63

※ローンセンター経由で営業店への再配置も視野

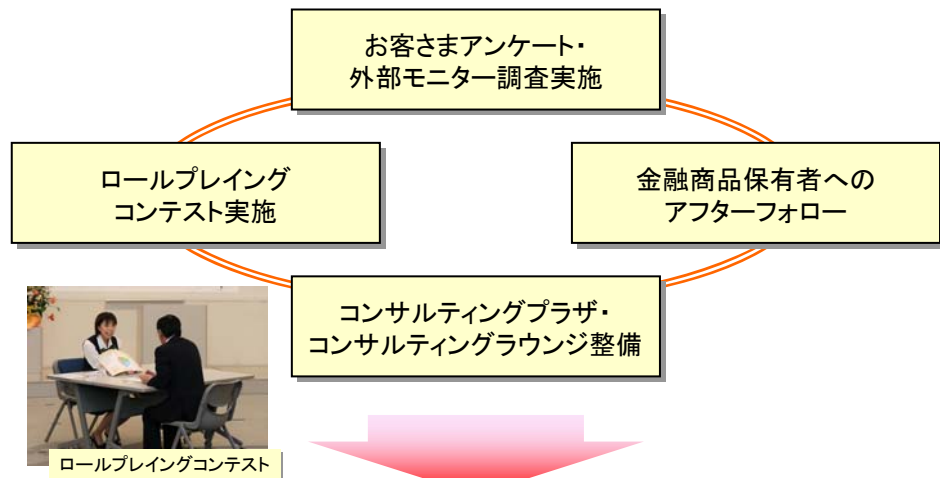
拠点増設

- ✓ 成長地域へのローンセンター増設検討
- 東京都東部
- 成田新高速鉄道沿線

金融仲介機能の強化と質の高い金融サービスの提供: 個人 II

■ コンサルティング機能のさらなる向上に向けて体制を強化

コンサルティング機能向上に向けた取り組み

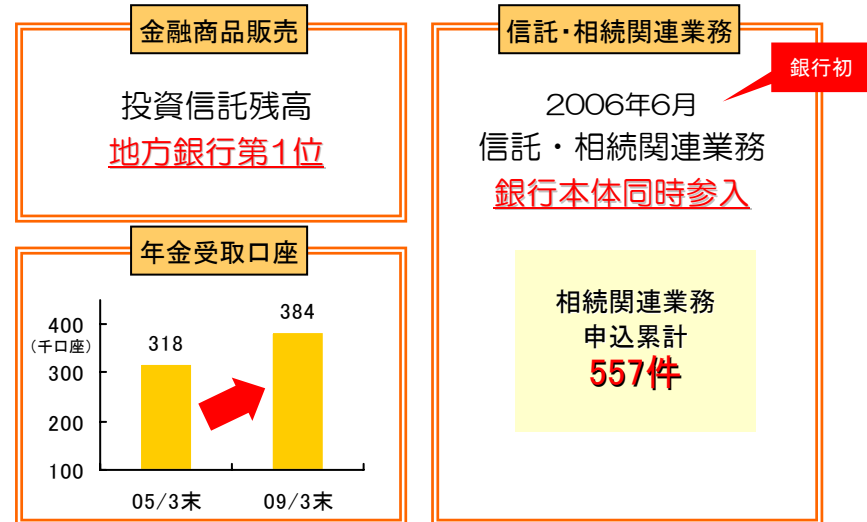


「銀行リテール力調査」**2年連続第1位**
(全国121銀行中)

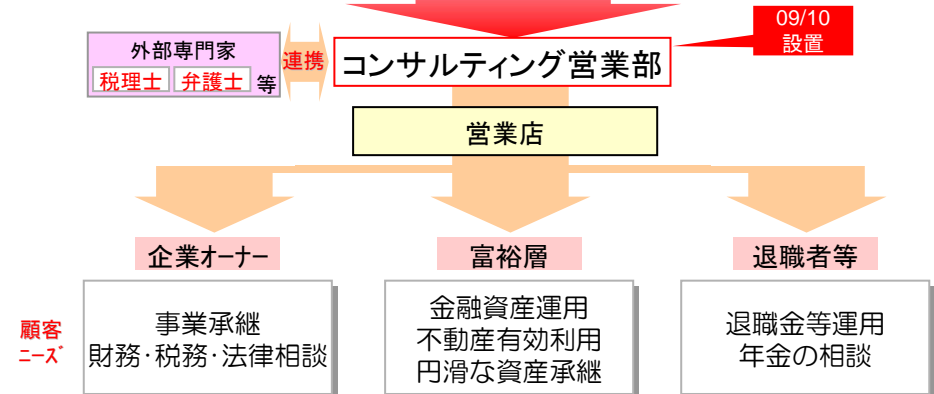
2008年		2009年	
順位	金融機関名	順位	金融機関名
1	ちばぎん	1	ちばぎん
2	東京スター	2	みずほ
3	但馬	3	東京スター
4	三井住友	4	三菱東京UFJ
5	常陽	5	横浜

※日本経済新聞社・日経リサーチ共同調査

さらなるコンサルティング機能向上に向けた体制整備



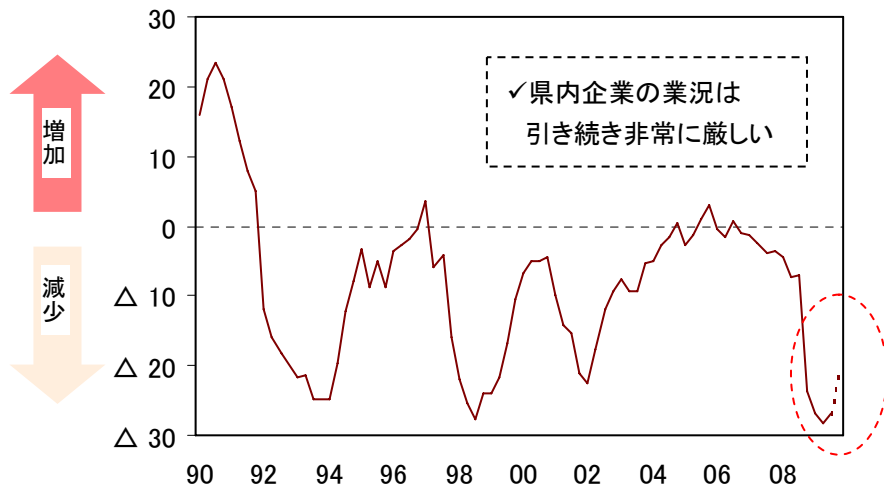
✓ 本部各部に分散していた上記他にかかる企画・推進業務等を一元化



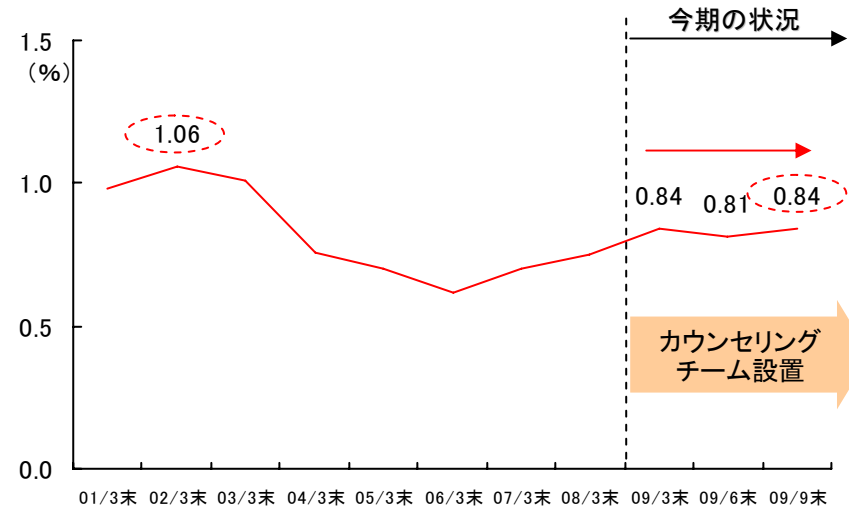
金融仲介機能の強化と質の高い金融サービスの提供:円滑な資金供給

■ 中小企業や個人への円滑な資金供給のため、体制を整備

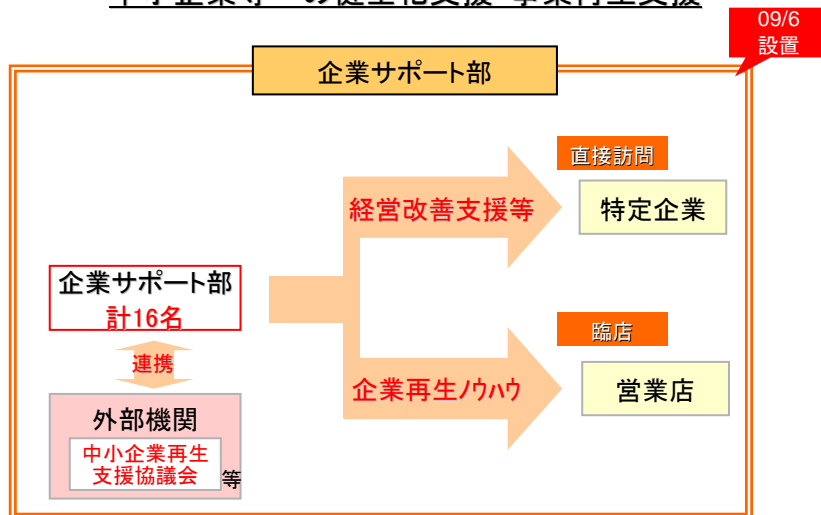
千葉県内業況判断指数(BSI:売上)



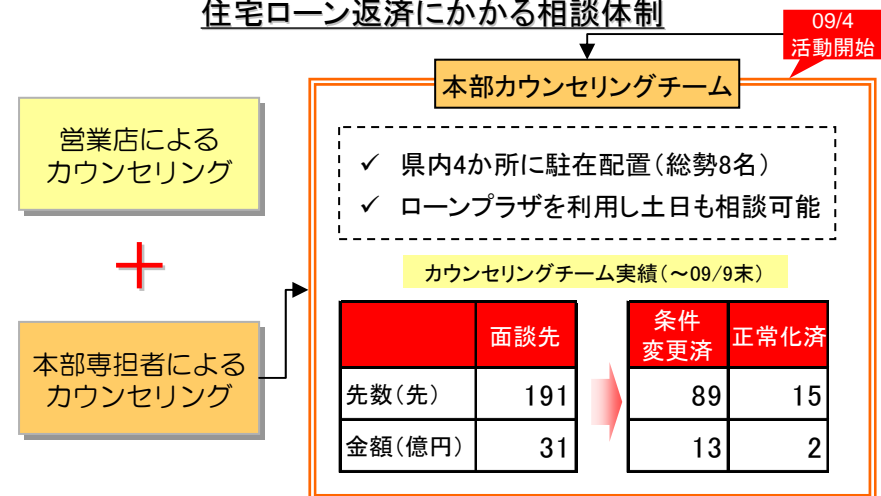
住宅ローン延滞率



中小企業等への健全化支援・事業再生支援



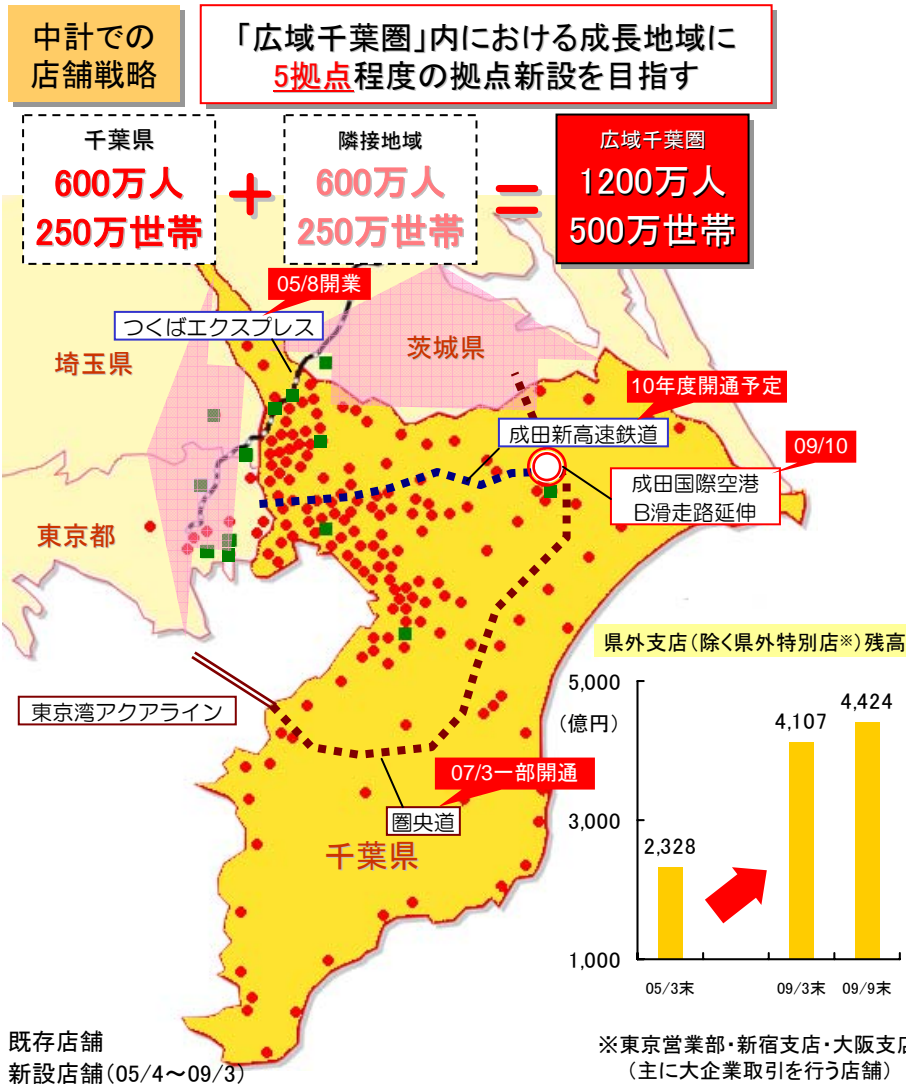
住宅ローン返済にかかる相談体制



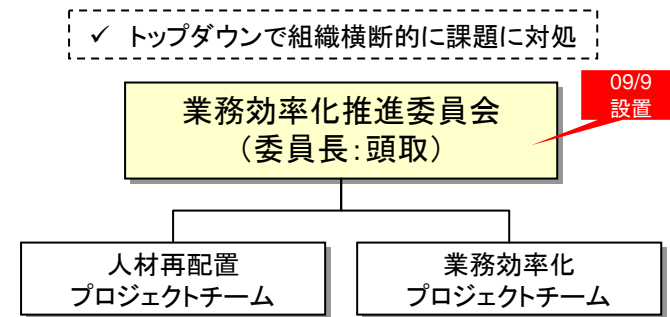
金融仲介機能の強化と質の高い金融サービスの提供：経営資源の効果的配分

■ さらなる成長に向けて、経営資源を効果的に配分

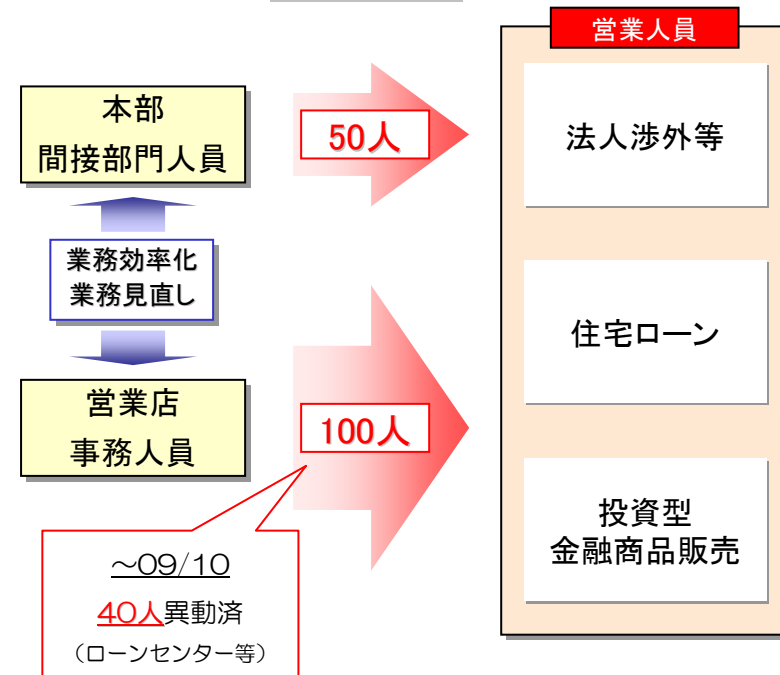
店舗戦略



業務効率化推進委員会



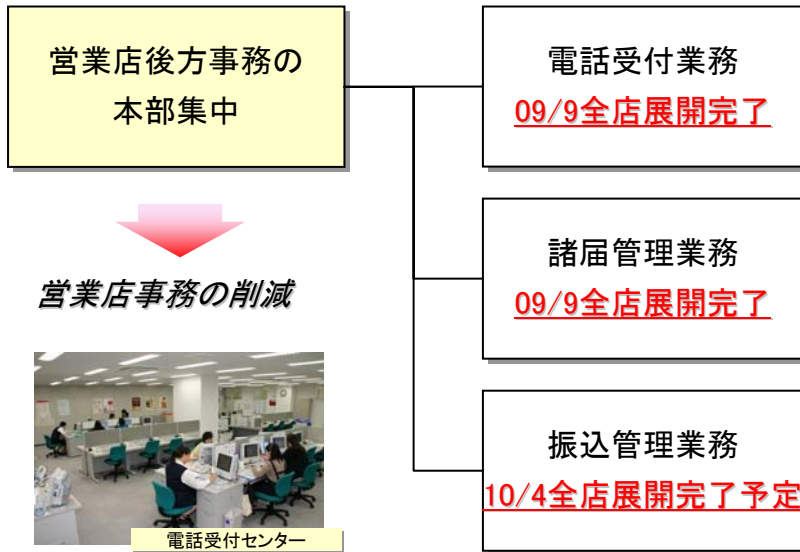
人材の再配置



強靱な経営態勢の構築 I

■ 事務人員の営業戦力化のため、事務を効率化するとともに、経費削減を推進

事務集中化への取り組み

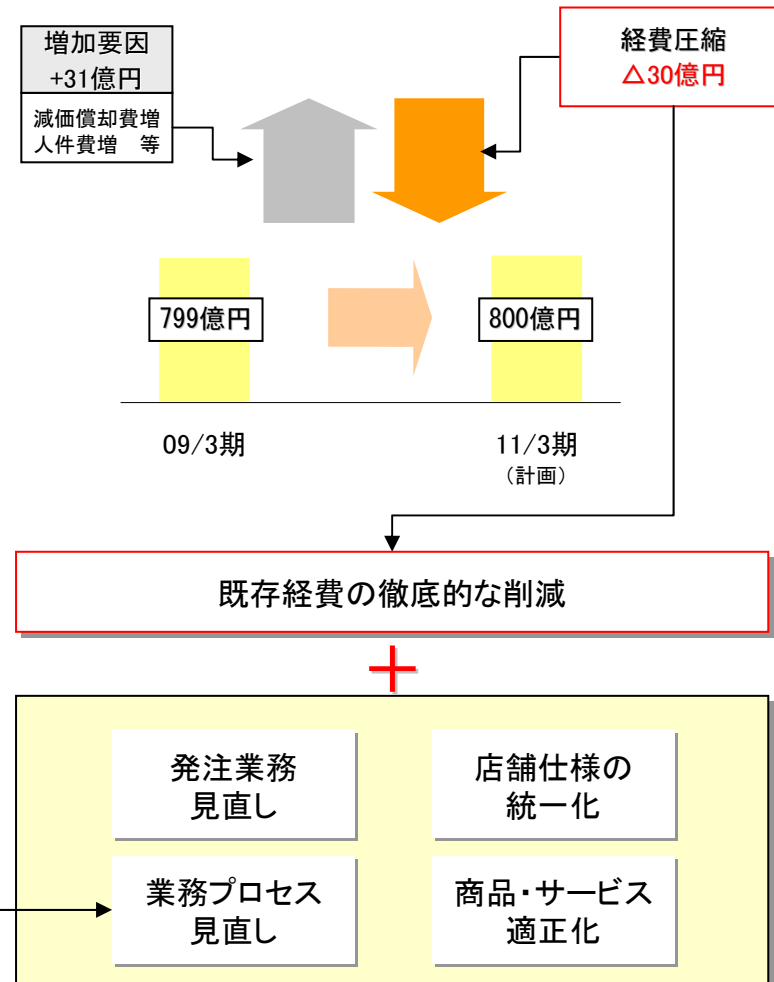


事務の簡素化

✓ 営業店事務負担軽減のため、徹底的に事務を見直し、

09上期に27項目の事務見直しを実施
今後も継続して見直し

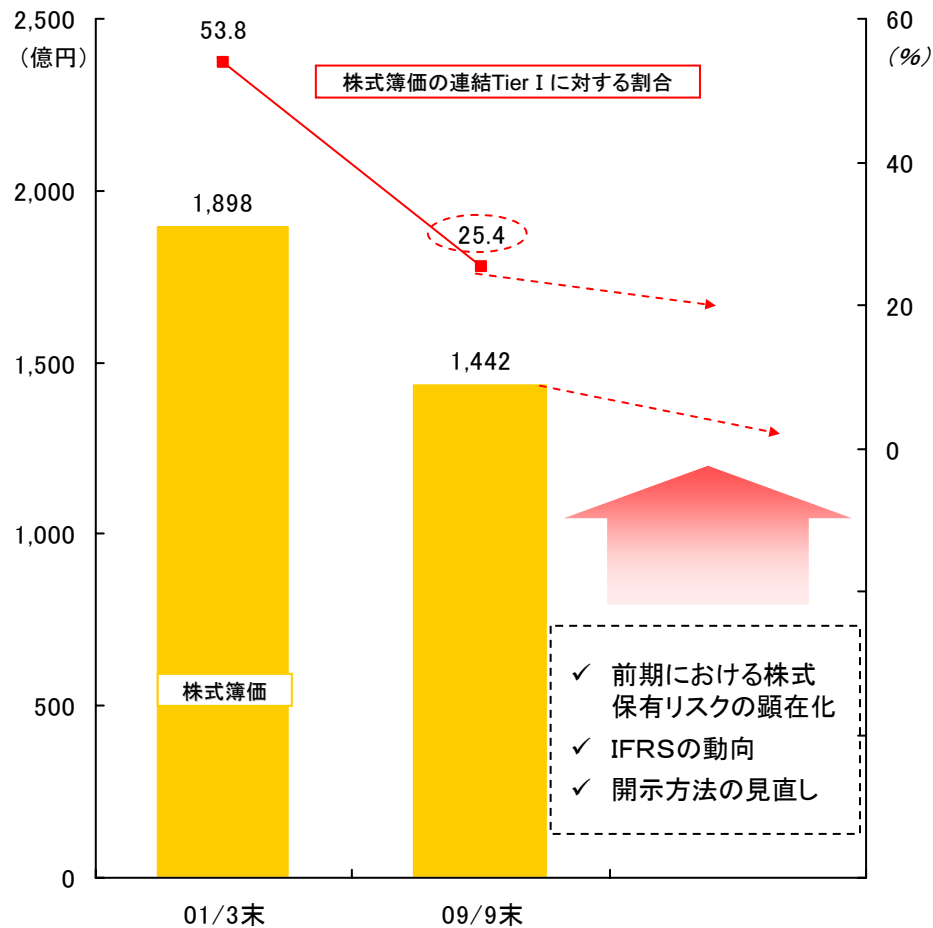
経費削減への取り組み



強靱な経営態勢の構築 II

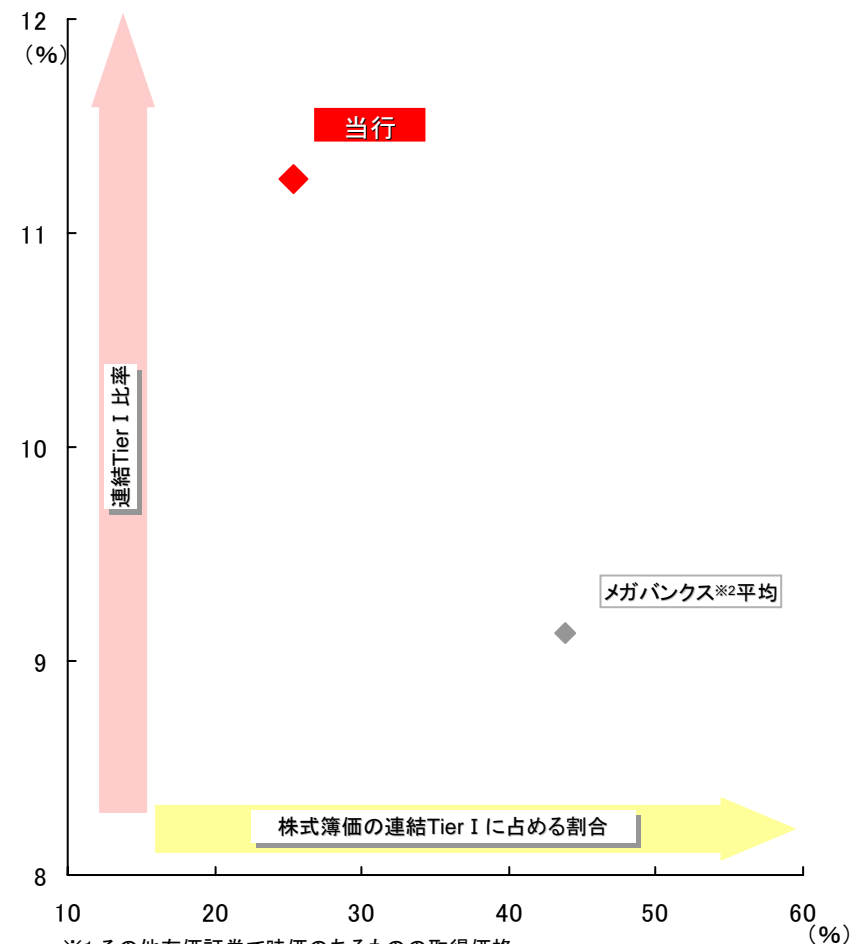
■ 保有株式の削減をつうじて、リスクを低減

株式簿価[※]とTier I に占める割合(連結)



※その他有価証券で時価のあるものの取得価格

Tier I 比率・株式簿価^{※1} / Tier I 比較(連結)
(対メガバンク)



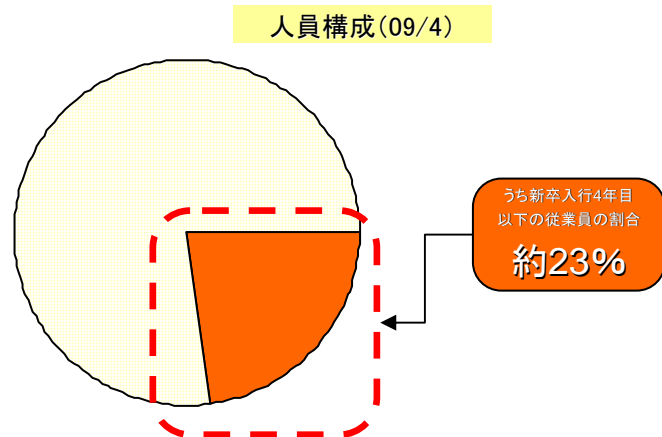
※1.その他有価証券で時価のあるものの取得価格

※2.三菱UFJFG・みずほFG・三井住友FG

人材育成の強化

■ 若年層をはじめ、さまざまな階層の人材育成を強化

若手職員の早期戦力化

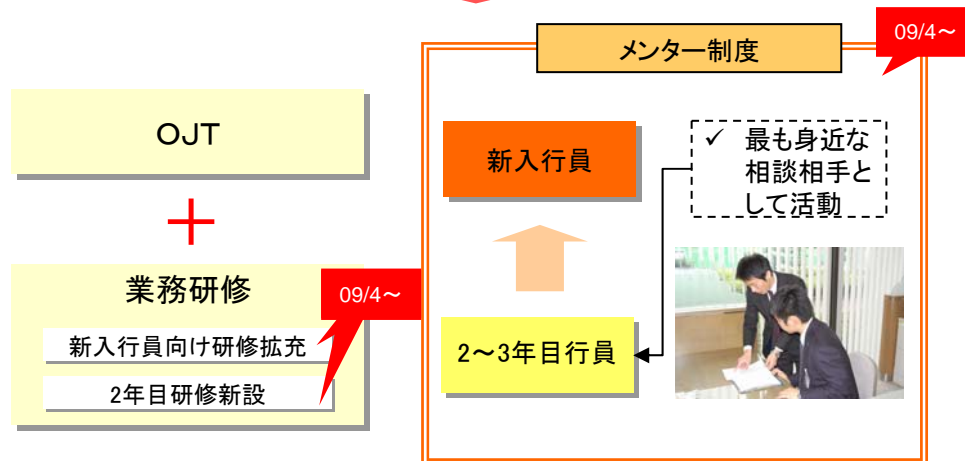


業務スキル・営業店マネジメント力の向上

09/8
実施



早期職場適応・戦力化

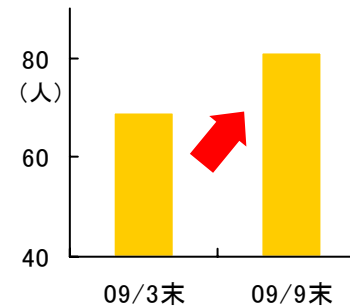


中高年・女性職員の活躍支援

09/5

✓ 中高年職員の営業店配置増加

営業店配置の中高年職員数



✓ ワークライフバランスのための環境整備に優れた企業として、次世代育成対策推進法に基づく認定



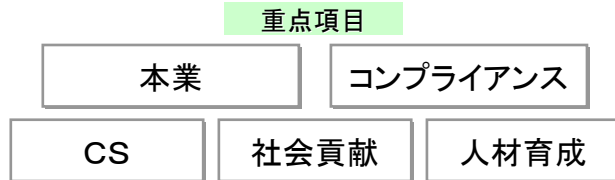
今後のCSR活動について

■ 専門部署を設置しCSRへの取り組みを強化

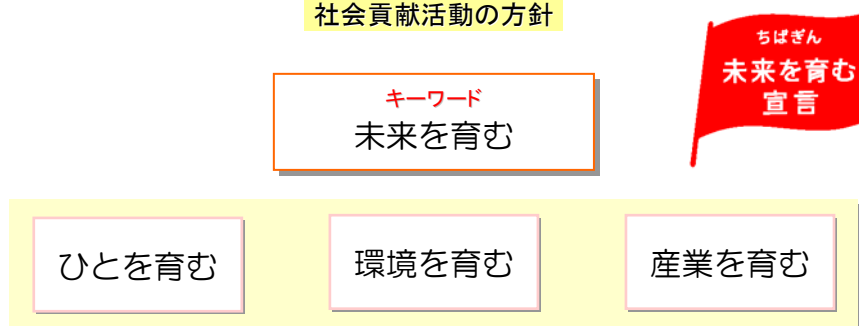
グループCSR活動方針

ちばぎんグループは持続可能な地域社会実現のため、金融仲介機能の発揮等の本業に加え、誠実かつ公正な企業活動、気候変動等環境問題など地域社会を取り巻く様々な課題解決に向けた活動等に、グループ役職員一人ひとりが当事者という意識を持って、積極的に取り組んでまいります。

そしてこれら当行グループの取り組みの情報開示をつうじ、ステークホルダーの皆さまとのより良い関係作りに注力いたしますとともに、「新たな地域社会の姿」を皆さまと描いてまいります。



社会貢献活動の方針




最近のトピックス

ちばぎんの森育樹活動 09/9

✓ 「千葉県森林整備によるCO₂吸収量認証制度」認証第1号取得

認証CO₂吸収量
35.0t
(ガソリン15,075ℓ相当)



ちばぎんの森

「ちばぎんハートフル福祉基金」 09/11

✓ 社会福祉活動を実施する事業者に資金の助成を行う公益信託を設定

障がい者福祉

高齢者福祉

児童福祉

助成

公益信託
ちばぎんハートフル福祉基金
信託財産: 当初1億円

CSR推進室



CSR活動へのさらなる取り組み強化